

3-2			
主題	広報活動の強化と介護予防による利用率向上への取り組みとその成果について		
副題	入居者の獲得と退居者の減少、2 方面からのアプローチ		
キーワード 1	広報活動	キーワード 2	介護予防
		研究(実践)期間	25 ヶ月

法人名	社会福祉法人 東京弘済園
事業所名	養護老人ホーム 弘寿園
発表者(職種)	澤登岳彦(生活相談員)
共同研究(実践)者	なし

電 話	0422-43-1240	F A X	0422-43-3541
-----	--------------	-------	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人東京弘済園は、昭和 30 年に財団法人鉄道弘済会によって三鷹市に創立されました。特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービス、保育園なども併設されております。弘寿園(50 床 2 人部屋)にはきれいな芝生の広場もあり、四季折々の花や木々に囲まれながら皆さま生活されております。
------------------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

養護老人ホームは老人福祉法での措置により、様々な環境上の理由や経済的な理由を抱えている高齢者が入所できる施設であるが、市民や行政、病院での認知度が低いことにより、入所対象となる方が多い状況にも拘わらず、定員割れをしている施設が多く見られる。

弘寿園も長期にわたり欠員が出ている状況が続いていた為、利用率の向上が課題として上がっていた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

【研究の目的】入居者を増やす事、退居者を増やさない事を目標に、どのようなアプローチが効果的かを検証する。

【仮説】広報活動や施設のアピールポイントを強化する事により、入居希望者を増やせるのではないかと。また、体を動かす活動を増やす事により、退居者を減らせられるのではないかと。

《3. 具体的な取り組みの内容》

1. 入居希望者確保への取り組み

- ①平成 26 年 6 月より広報誌を作成し、市・区役所、精神科病院等を回り、広報誌の配布をした。広報誌には、園での生活の様子や空き状況等を記載し、新規開拓に努めた。
 - ②現入居者が希望するクラブを新規で追加する事や活動日数を増やす事が、入居希望者へのアピールになると考え、平成 26 年 12 月に現入居者にクラブ活動についての希望調査を行った。
- 希望人数が多かったクラブを平成 27 年度から新たに作り、現在あるクラブの回数や参加できる人数を増やした。
- ・カラオケクラブ 実施回数を増やした(増やした当初は利用者が運営)
 - ・書道クラブ 参加人数を増やした
 - ・園芸クラブ 新規で追加(園芸指導者月 2 回来園 日々の手入れは入居者中心に実施)

※月に 1～4 回行事等のイベントも継続。

※活動予算は、行事食を外注弁当から園での食事に変更（質や内容は落とさない）する事や、他養護老人ホームの状況や運営規定と照らし合わせた上で、支給金等をカットすることにより捻出。

2. 現入居者の在園期間を延ばす為の取り組み（介護予防に重点を置いた心身機能の維持）

① デイサービス、通所リハビリ、訪問マッサージ等の外部サービス（9 種類）を積極的に利用した。

- ・平成 26 年 12 月 20 名利用
在籍 41 名中 要介護、要支援者 10 名
 - ・平成 28 年 6 月 42 名利用
在籍 50 名中 要介護、要支援者 20 名
- ※外部サービスは重複利用あり。

② 園で体を動かす事も行った。

（以前からの継続）

民謡踊り、体操（平日ほぼ毎日 40 分）

外部講師による健康体操（月 2 回 1 時間）

③ 利用者に様々なお手伝い（食事時の急須運び、下膳、庭の手入れ、季節の飾り付け、掃除等）、ウォーキング等により、体力の増強を促した。

《4. 取り組みの結果》

【入退所者の推移】

- ・平成 26 年度 入所 9 名 退所 9 名
 - ・平成 27 年度 入所 12 名 退所 6 名
 - ・平成 28 年度 6 月末時点 入退所各 1 名
- ※平成 26 年 10 月末には最大で 9 名の欠員状態だったが、平成 27 年 11 月には満床（50 名）となった。

【入院者数、入院日数の推移】

- ・平成 26 年度 延べ 22 名 649 日
- ・平成 27 年度 延べ 15 名 276 日
- ・平成 28 年 6 月末時点 延べ 2 名 75 日

【転倒・転落による事故件数】

- ・平成 26 年度 67 件
- ・平成 27 年度 59 件
- ・平成 28 年度 6 月末時点 8 件

《5. 考察、まとめ》

【入居希望者確保への取り組みについて】

平成 26 年度からの広報活動でも一定の成果が得られたが、平成 27 年度から実施した園芸クラブ等で、施設での生活をよりアピールできたので、更に成果があがったと思われる。

【在園期間を延ばす取り組みについて】

入院者数、転倒事故件数共に減少している為、一定の成果が得られたと思われる。

【まとめ】

施設の環境面での特徴や入居者の希望等、様々な視点から施設のアピールポイントとなる事、入居者の利益につながる事を考え、それらを踏まえた広報活動を行う事が、成果につながると思われる。

要介護認定者を増やす事で重度者加算等を付けられなくなるといった弊害はあるが、外部サービスを利用する事やお手伝い等を促す事で身体機能の維持や精神活動の維持に繋がり、入院日数や転倒件数が減る為、トータルで見るとプラスに働いているのではないかとと思われる。お手伝いに関しては、周りへの影響が大きく、今まで動かなかった人まで何かしらのお手伝いをしようという気持ちに繋がり、精神面での活性化といった予測しなかった効果も生まれた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人に不利益が発生しないこと、本研究以外では使用しないことを口頭にてご本人に説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

マーケティング営業戦略の法則入門
<http://www.e-ssp.net/mk/mkla1.html>
アクセス年月日 2016 年 7 月 1 日

《8. 提案と発信》

高齢者の生活を支えるセーフティーネットとして重要な立ち位置にある養護老人ホームが、本発表により認知度が増し、必要としている方の入居に繋がる事を期待したい。